

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和3年第39週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和3年第39週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和3年第39週（令和3年9月27日から令和3年10月3日まで）

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週（1.95人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.51人と前週（0.27人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.43人と前週（0.22人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～日常生活の回復に向けて～”について取り上げました。

川崎市における令和3年第39週の新型コロナウイルス感染症の報告数は133件と、8月下旬から急激に減少し、9月30日をもって全ての都道府県で、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置は解除されました。

緊急事態宣言等は解除されましたが、外出自粛や飲食店の営業時間短縮等の制限解除は流行状況を見極めつつ段階的に行うのが望ましいとされています。大きな再流行を防ぐために、混雑した場所でマスクを外す、手を洗わずに目や口などに触れる、換気の悪い密閉空間に大人数で集まる等、感染リスクが高いとされる行動は避けるようにしてください。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

連絡先 川崎市健康福祉局保健所感染症対策課 小泉
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

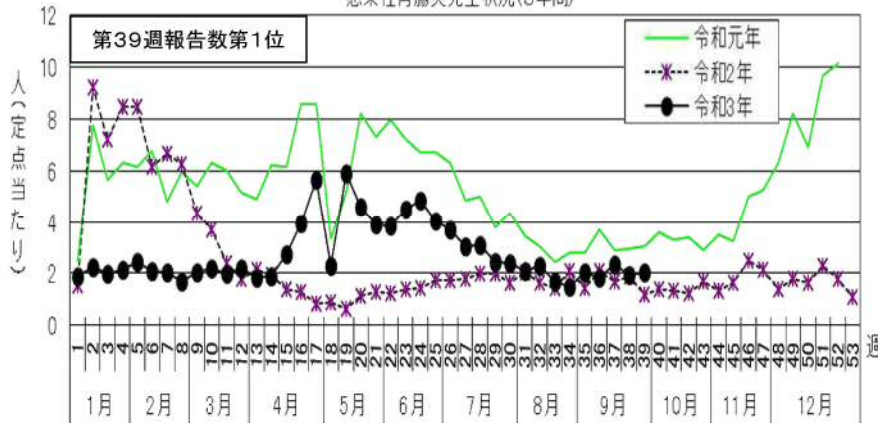
【感染症発生動向調査事業から】

令和3年9月27日（月）～令和3年10月3日（日）〔令和3年第39週〕の感染症発生状況

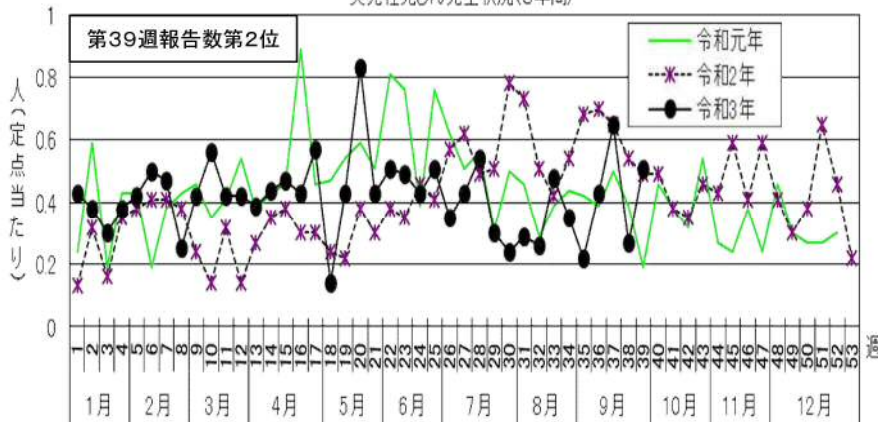
第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週(1.95人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.51人と前週(0.27人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.43人と前週(0.22人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



突発性発しん発生状況(3年間)

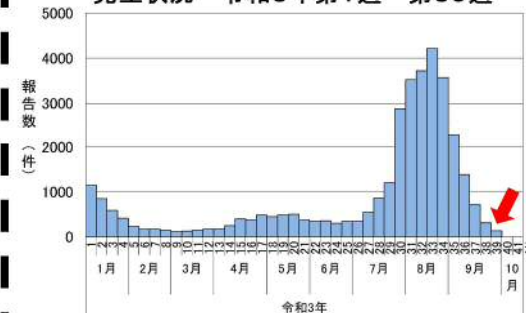


新型コロナウイルス感染症～日常生活の回復に向けて～

川崎市における令和3年第39週の新型コロナウイルス感染症の報告数は133件と、8月下旬から急激に減少し、9月30日をもって全ての都道府県で、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置は解除されました。

緊急事態宣言等は解除されましたが、外出自粛や飲食店の営業時間短縮等の制限解除は流行状況を見極めつつ段階的に行うのが望ましいとされています。大きな再流行を防ぐために、混雑した場所でマスクを外す、手を洗わずに目や口などに触れる、換気の悪い密閉空間に大人数で集まる等、感染リスクが高いとされる行動は避けるようにしてください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症発生状況－令和3年第1週～第39週－



状況による感染リスクの比較

マスクの不適切な使用は感染リスクが高い



低 感染リスク 高

換気の悪い密閉空間は感染リスクが高い



低 感染リスク 高

手を洗わずに、目や口などに触れるのは感染リスクが高い



低 感染リスク 高

感染対策がなされていない場での会食は感染リスクが高い



低 感染リスク 高